

都市再生整備計画

つわのじょうかまちちく
津和野城下町地区

第4回変更

しまね しまね
島根県 つわのちょう
津和野町

令和3年1月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input checked="" type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	島根県	市町村名	津和野町	地区名	津和野城下町地区	面積	167	ha
計画期間	平成 28 年度	～	令和 3 年度	交付期間	平成 28 年度	～	令和 3 年度	

目標

- 大目標：津和野町の観光の魅力を高めるとともに、都市と田舎の交流を促進し、観光のまち・津和野町の顔にふさわしいまちづくりを行う。
- 【目標1】失われた文化財の整備・復元や景観疎外要因となっていた廃屋などを整備し、観光のまちとして魅力のある、賑わい空間を実現させる。
- 【目標2】津和野の玄関口であるJR津和野駅周辺を魅力あるものにするるとともに、交流施設を整備して都会と田舎の交流を促進する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

【津和野町の概況】

本町は、平成17年に旧津和野町と旧日原町が合併し誕生した。島根県の最西端に位置し、町域の北及び東側は益田市、南側は吉賀町、北西側は山口県萩市、南西側は山口市に接している。町は旧日原町役場を本庁舎、旧津和野町役場を分庁舎として街が形成されている。特に分庁舎のある津和野エリアは江戸時代、城下町として発展し、県の機関や病院、郵便局なども立地している。しかし、人口は、平成22年において8,427人(国勢調査)であり、減少傾向が続いており、ピークの昭和30年と比べて平成22年は15,000人近く減少している。町民からは今後の町のあり方に不安の声が上がっており、歴史的なまちづくりを積極的に推進し、観光客を誘致することで町の活性化に期待を寄せている。町としても厳しい財政的運営が続くもの、町長をはじめ、財政当局とも連携して積極的な投資事業を展開してきたが、平成25年災害における復旧に多額の費用を費やすこととなり、事業の縮小を余儀なくされている。

【地区の現況とまちづくりの経緯】

本地区は、旧津和野町の中心部に当たる区域の一部であり、JR津和野駅などが立地する。大正11年に津和野駅が町の北側に開業し、駅通りが新設され、それまでの交通体系が大きく変わり、地区内の商店街(駅通り～本町・殿町通り～福成丁)は、駅から太鼓谷福成神社への参道として発展し、今日においても観光のメインストリートとして町の経済の中心地となっている。また、歴史的建造物の残る本町通りや殿町通りは重要伝統的建造物群保存地区となっている。国道9号は、戦後、地区の中心部から外れた山の山腹に整備され、日本海側と瀬戸内をつなぐ主要ルートとして多くの車が行き交い、昭和40年以降、多くの観光客が津和野を訪れるようになったのもこの国道整備によるところが大きい。最近では観光客に町をゆっくり歩いて、自転車でも観光してもらうために、町の北側(JR北側)と南側(道の駅津和野温泉なごみの里)に駐車場を整備し、国道9号から道の駅へアクセスする県道も平成30年に完成した。津和野は昭和30年以降、人口が減少し続けて、現在は3分の1程度までになってきているが、観光客は昭和53年度に年間153万人をピークとして、現在も100万人前後を維持している状況である。町では定住対策や観光客の増加を図るべく総合振興計画をはじめとして各種計画に盛り込むと共に、歴史的まちづくりを推進するため、歴史的資源の調査を実施し、平成25年度に歴史的風致維持向上計画の認定を受けた。策定直後、平成25年7月の豪雨による災害により、JRをはじめ交通機関に甚大な被害を受けたが、幸いにも観光施設などは被害が軽微であり、JR山口線も1年での復旧を果たし、観光客数も災害前の状態に戻りつつある。このような中、平成27年度にはこれまでの町民の歴史まちづくりへの努力に対して設定したストーリー「津和野今昔～百景園を歩く～」が文化庁から日本遺産の認定を受け、さらに平成29年度にはJR西日本によるディスプレイネーションキャンペーンも開催されるなど、行政と民間が一体となったまちづくりの機運がますます高まってきている。今後は、それぞれの計画に基づいた具体的な事業の遂行により、津和野町の顔としてふさわしいまちづくりが期待されている。

【他計画との適合・関連計画】

本町は、歴史的風致維持向上計画の認定を平成25年4月に国土交通省から受けており、本事業は、この計画に位置づけられた事業である。

課題

- 歴史的史跡の風致が損なわれているため、史跡の活用が図られていない
 - 文化財や文化施設、民俗芸能等のルートなどをつなぐ、津和野町ならではの歴史文化のネットワーク、周遊ルートが構築されておらず、観光客への案内・説明が不十分である。
 - 照明施設が老朽化、機能していない箇所があり、夜の景観を活かしたまち歩きに十分活かされていない。
- 歴史的な街並み景観を眺望できない
 - 国道9号線沿いの旧ボリング場の施設が空き家として長期にわたり残置しており、町の観光イメージのダウンにつながっている。また、同施設は老朽化が進行し安全管理上も問題があり、歴史的街並みの借景としての景観を阻害している。
- 町の玄関口である駅周辺の賑わいがいない
 - JR津和野駅はこれまでも津和野の観光の玄関口として機能してきたが、駅舎をはじめ駅周辺の環境が歴史的なまちを印象づけるものでなく、賑わいや拠点性が感じにくいものとなっている。
 - 駅を出発点として福成神社への参道沿いに空き家や荒廃した広場などがあるととも、参道の一部美装化が行われておらず観光客の誘導に支障をきたしている。

将来ビジョン(中長期)

- 第1次津和野町総合振興計画(津和野町・平成20年3月)
 - 基本理念として「人と自然に育まれ、温もりのある交流のまちづくり」を掲げ、豊かな自然を生かしたまちづくり、教育と文化の薫り高いまちづくり、地域に根ざした新たな産業の創出、定住施策の推進と福祉、交流による開かれたまちづくりの5つの基本目標のもとに、施策・事業を進めている。
 - 津和野町都市計画区域マスタープラン(島根県)
 - 島根県によって津和野都市計画区域マスタープランが策定され、将来の市街地像や土地利用方針、及び都市施設の整備方針などが明らかにされている。
 - 津和野町景観計画(津和野町・平成20年9月)
 - 景観計画では、景観の保全・形成に関わる理念や方針、及び具体的な取組内容を定めている。この景観計画に基づき津和野町景観条例を制定、平成21年4月から施行し、景観行政に取り組んでいる。
 - 津和野町教育ビジョン(津和野町・平成24年3月)
 - 計画策定の前提の一つとして、「津和野藩校養老館をはじめとする史跡、名勝、記念物、森鷗外記念館等の文化関連施設も多く、この恵まれた教育資源を有効に活用し、さらに学校教育、社会教育が連携した文化の薫り高い町となるように教育活動の推進を図る」ことをあげている。
 - 津和野町歴史文化基本構想・保存活用計画(津和野町・平成23年3月)
 - 基本構想では、文化財の保存・活用の基本理念を設定し、また、「関連文化財群」と「歴史文化保存活用区域」という新たな視点を踏まえ、テーマや区域を設定しながら、文化財の保存・活用に関する方針等をまとめている。
 - 保存活用計画は、「関連文化財群」と「歴史文化保存活用区域」ごとに、取組内容を明らかにするとともに、それらの中から主要な事業などを取り上げ、かつ相互に関連づけてグループ化し、先導的なプロジェクトを設定している。
 - 津和野町歴史的風致維持向上計画(津和野町・平成25年4月認定)
 - 津和野町の歴史的建造物や伝統行事等、地域固有の風情、情緒、たずまいを醸し出している良好な環境(歴史的風致)を維持及び向上させ、まちや暮らしの環境とその魅力を守り、高めるとともに、後世に継承することを目的とし、歴史的風致維持向上施設の整備又は管理に関する13の事業などを定めている。

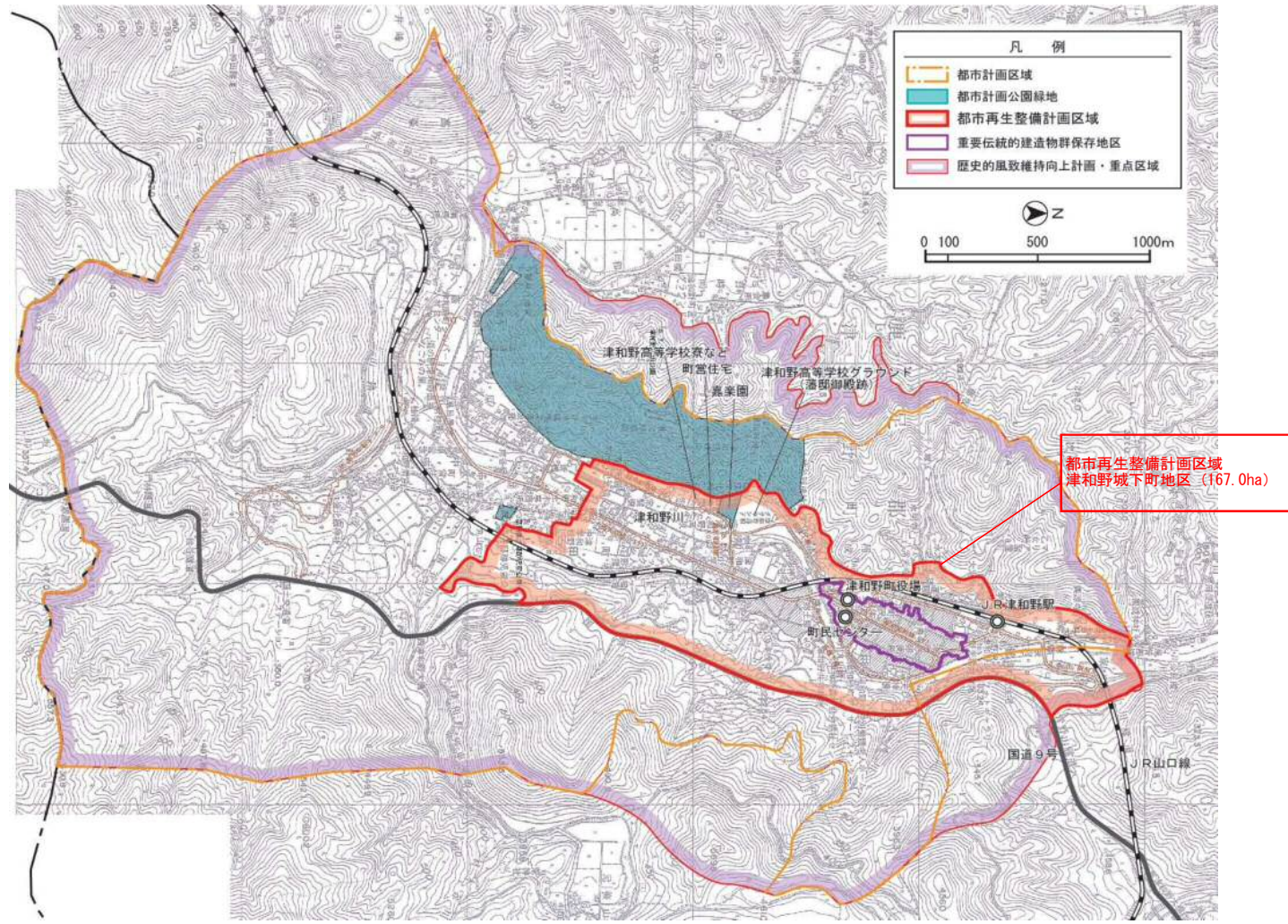
目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
JR津和野駅の乗車人員	人/日	JR津和野駅を利用する1日平均乗車人員	JR西日本と連携した駅周辺整備により、津和野の玄関口として魅力ある空間整備を図ることと津和野駅の平均乗車人員を20%増を図る	231人/日	平成26年度	280人/日	令和3年度
駅前町営駐車場の年間利用台数	台/年	JR津和野駅近接の町営駐車場の年間利用台数	駅周辺の魅力ある整備により、駅前駐車場の稼働率を向上させ、駐車場利用台数の30%増を図る	4,623台/年	平成26年度	6,000台/年	令和3年度
地域住民の定住意欲の割合	%	伝統的建造物群保存地区内に居住する住民アンケートにより、地区内に住みたいと考える住民の割合	文化財の復元等による地域として誇れる歴史的資産の整備より、地区内住民の定住意欲の3%増を目指す。	55.40%	平成25年度	58%	令和3年度
観光案内所の利用者数	人/年	観光案内所を訪れる年間の利用者数	観光案内所をJR駅舎内に移転するにあわせ、駅舎改修を行うことにより利便性の向上を図り、当所の利用者数の30%増を図る	12,100人/年	平成28年度	15,700人/年	令和3年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>1. 重伝建地区、津和野城跡を中心に、情報板(案内サイン、解説サイン、誘導サイン)の整備を行い、歴史的風致維持向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○説明板、誘導標識などを整備し、登城路の利用や旧城下町の周遊を促進する。 ○重伝建地区を中心に増加している観光客のニーズに応えるため、区域内の主要箇所にサイン整備を行う。 	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域生活基盤施設(情報板) <p>【提案事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業活用調査(事業効果分析) ○まちづくり活動推進事業(まちづくり活動支援) <p>【関連事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○藩校養老館整備事業
<p>2. 街並を眺望できる広場を整備し景観の向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○関係権利者と協議・調整し、土地・建物を入手し、老朽危険建物の撤去・整地などに取り組む。 ○自動車動線等を安全・円滑に確保するとともに、駐車場などを整備する。 ○維持管理を考慮しながら広場・眺望の場などを整備する。 	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域生活基盤施設(見晴らし広場) <p>【提案事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まちづくり活動推進事業(まちづくり活動支援) ○事業活用調査(事業効果分析)
<p>3. 津和野の玄関口として、住民や観光客が安全・快適な利用ができるよう駅周辺の整備を行い、出会いと交流、にぎわいの創出を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○JR西日本と津和野町が連携し、JR津和野駅の駅舎の改修を行う。 ○駅前広場を再整備し、利便性やシンボル性を高める。 ○町営駐車場の再整備及び駅舎との動線の円滑化を図る。 ○SL及びSL転車台・点検車庫を、歴史資源・観光資源として有効活用する。 ○駅前広場南側にイベントなどができ、駅前通り、高岡通りへの誘導性を高めるポケットパークを整備する。 ○駅前広場の整備においては、誘導性を高める歩行者導線の整備(サインを含む)を図る。 ○駅を起点とした稲成神社の参道沿いの照明、広場、道路の美装化を行いまち歩きの魅力化を図り参道としての一体感を創出する。 	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域生活基盤施設(駅前広場) ○地域生活基盤施設(稲成丁河川広場) ○地域生活基盤施設(駅前駐車場) ○地域生活基盤施設(駐輪場整備) ○地域生活基盤施設(情報板) ○高質空間形成施設(駅前広場モニュメント、照明整備、町道稲成丁線、多目的トイレ) ○高次都市施設(津和野街並み観光交流センター) <p>【提案事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域創造支援事業(JR津和野駅駅舎整備事業) ○事業活用調査(事業効果分析) ○まちづくり活動推進事業(まちづくり活動支援) <p>【関連事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○つわぶき安全センター移転事業 ○つわぶき安全センター跡地・周辺一体型小広場整備事業(仮称) ○休憩施設等整備事業(ポケットパーク) ○駅前第二駐車場整備事業(仮称) ○SL転車場展望施設整備事業
<p>その他</p>	
<p>【連携して取り組む事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○JR津和野駅前の旧SL館跡地については、津和野警察署と協議し、つわぶき安全センターの移設を進め、駅と安野光雅美術館と連続的・一体的な整備を図る。(街なみ環境整備事業) ○駅舎の改修などにおいては、JR西日本と綿密に協議しながら、協力・連携して取り組む。 ○H27年4月から津和野町役場に歴史まちづくり推進係を設置し、総務財政課、建設課、農林課、教育委員会等関連部署と連携して計画の策定、事業の実施に対するの体制強化を図っている。 <p>【まちづくり活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各地区の事業の推進にあたっては関係機関・団体を中心とした管理運営体制を構築する。 ○地域住民や地域活動団体と連携・協働し、津和野地区さらには町全体としてのにぎわい創出につながるよう、まちづくり活動を支援する。 ○ガイドの育成を進め、地区の魅力を発信するための体制作りも進めていく。 	

津和野城下町地区(島根県津和野町)	面積	167 ha	区域	津和野町の一部
-------------------	----	--------	----	---------

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



つわのじょうかまちちくしまねけんつわのちよう
津和野城下町地区(島根県津和野町) 整備方針概要図

目標	大目標:津和野町の観光の魅力を高めるとともに、都市と田舎の交流を促進し、観光のまち津和野町の顔にふさわしいまちづくりを行う。 [目標1] 失われた文化財の整備・復元や景観疎外要因となっていた廃屋などを整備し、観光のまちとして魅力のある賑わい空間を実現させる。 [目標2] 津和野の玄関口であるJR津和野駅周辺を魅力あるものにするるとともに、交流施設を整備して都会と田舎の交流を促進する。	代表的な指標	JR津和野駅の乗車人員	人/日	231 (26年度)	→	280 (R3年度)
			駅前町営駐車場の年間利用台数	台/年	4,623 (26年度)	→	6,000 (R3年度)
			地域住民の定住意欲の割合	%	55.4 (25年度)	→	58 (R3年度)
			観光案内所の利用者数	人/年	12,100 (28年度)	→	15,700 (R3年度)

